

添付資料

添付資料 1 : 連絡先一覧例

連絡先	電話番号
災害対策本部派遣支援委員会事務局（専用直通回線）	〇〇〇-△△△-×××××
チームリーダー（専用携帯電話）	〇〇〇-△△△-×××××
幹部	
理事長	〇〇〇-△△△-×××××
病院長	〇〇〇-△△△-×××××
国際医療協力局長	〇〇〇-△△△-×××××
国府台病院長	〇〇〇-△△△-×××××
国府台事務部長	〇〇〇-△△△-×××××
派遣支援委員会	
救急部長（委員長）	〇〇〇-△△△-×××××
企画戦略室長	〇〇〇-△△△-×××××
看護部長	〇〇〇-△△△-×××××
薬剤部長	〇〇〇-△△△-×××××
庶務課長	〇〇〇-△△△-×××××
派遣支援センター長	〇〇〇-△△△-×××××
被災地関係者	
宮城県災害対策本部医療担当	〇〇〇-△△△-×××××
国立病院機構仙台医療課長	〇〇〇-△△△-×××××
石巻医療圏災害医療コーディネーター	〇〇〇-△△△-×××××
石巻圏合同救護チーム本部事務局	〇〇〇-△△△-×××××
東松島市矢本保健相談センター	〇〇〇-△△△-×××××
東松島市災害統括保健師	〇〇〇-△△△-×××××
医療救護チーム 3 次隊	
◎◎チームリーダー（個人携帯電話）	〇〇〇-△△△-×××××
××業務調整員	〇〇〇-△△△-×××××
〇〇医師	〇〇〇-△△△-×××××
□□看護師	〇〇〇-△△△-×××××
△△薬剤師	〇〇〇-△△△-×××××
医療救護チーム 4 次隊	
◎◎チームリーダー（個人携帯電話）	〇〇〇-△△△-×××××
××業務調整員	〇〇〇-△△△-×××××
〇〇医師	〇〇〇-△△△-×××××
□□看護師	〇〇〇-△△△-×××××
△△薬剤師	〇〇〇-△△△-×××××
その他	
◇◇ホテル	〇〇〇-△△△-×××××

添付資料2：活動状況報告書（例1）

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

保健医療活動定時報告書 第〇〇日目

1. 活動内容（チームの状況および患者の状況も含む）

先発隊	後発隊
メンバー：	メンバー：
巡回診療活動 避難所名： 診療実績： 特記すべきこと：	
その他の活動	

2. 医療派遣チームの生活状況

- ① 健康状況：
- ② 宿泊状況：
- ③ 車両：

3. 明日の活動予定

4. 被災状況および復旧 / 復興状況：

5. 他の支援組織の動き：

6. トピック、今後の支援のあり方へ提言

添付資料3：活動状況報告書（例2）

日時	月 日 ()		時間： 時 分 ~ 時 分							
チーム名			スタッフ：Dr 名/Ns 名/PHN 名							
診療場所			薬 名/P SW 名/事務 名							
治 療 内 容										
番号	氏名	生年月日	初・再	性別	再掲			病名	治療処置内容	備考
					老人	小児	妊婦			
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
診療者内訳			男							
			女							
			計							
特記事項										

添付資料4：巡回診療日誌例

チーム名 _____

月日	時間	診療（巡回）地区	目的	参考
月 日	: ~ :			
	: ~ :			
	: ~ :			
	: ~ :			
	: ~ :			
	: ~ :			
	: ~ :			
	: ~ :			
	: ~ :			
	: ~ :			
	: ~ :			
	: ~ :			
(記入例) 10月 29日	8:40 ~ 9:05	〇〇小学校避難所	診療・衛生材料配布	こころのケア同行
(特記事項)				

添付資料5：医療救護チーム派遣のためのオリエンテーションシート例

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日改定

医療派遣事務局

● 派遣日程等

派遣形態：出張扱い（労災適応）

派遣期間：平成 年 月 日（ ） ～ 月 日（ ）

集合日時：平成 年 月 日（ ） 時

集合場所：

● 事前ミーティング

日時：平成 年 月 日（ ） 時 分

場所：

● 派遣先および業務内容

派遣先：〇〇県〇〇市

業務内容：

追加業務：

（例：医師：診療データ管理、看護師：医療資機材管理と隊員の健康管理、薬剤師：医薬品管理など）

詳細の引継ぎは、現地にて行います。

● 連絡先

緊急連絡先（現地）：000-0000-0000（チームリーダー所持の携帯番号）

緊急連絡先（本部）：000-0000-0000（医療派遣事務局）

詳細は、チーム毎の緊急連絡先リスト参照

● 宿泊等

宿泊先：

準備物品：

食事：

日当：

宿泊費：〇〇が負担

交通費：△△が負担

● 現地の状況

〇〇市のライフライン：水道は地域により復旧。電気あり。仮設トイレ使用中。携帯電話可能。状況は日々変化しますので、最新情報取得に努めて下さい。

派遣中は、業務や生活面で不自由な事が多くあります。現場にある資機材を創意工夫してご使用下さい。また、チームワークを大切に、職種に拘ることなく、自己の健康管理に留意され、被災者救援のために活動して頂きますよう、ご協力の程宜しくお願い致します。

以上

添付資料6：搬入物品一覧

区分	災害発生から 3日～1週間以内の出勤					災害発生から 1週間～1ヵ月の出勤				災害発生から 1ヵ月以上の出勤				
	品名	単位	数量	重要度		チェック 済	品名	単位	数量	チェック 済	品名	単位	数量	チェック 済
				A	B									
蓋	現金	円	適当	○			現金は、左記に同じ				現金は、左記に同じ			
生活 用品	携帯電話（代表）	台	1	○										
	携帯電話使捨て充電器	個	1	○										
	ユニフォーム	セット	人数分	○			※以下は、電気が使用可能な場合は持参				※電気製品は可能と考え準備する			
	毛布	枚	人数×	○			電気ポット	個	1					
	懐中電灯	ヶ	2枚	○			電子レンジ	台	1					
	乾電池（各種）	個	人数分	○			冷蔵庫	台	1					
	ゴミ袋（45L）	枚	適量	○										
	ゴミ袋（90L）	枚	20	○			水の使用が可能な場合				生活用品は、左記に同じ			
	ラジオ	台	20	○			シャンプー	本	1					
	地図	冊	1	○										
	寝袋	セット	1	○										
	ロールマット	枚	人数分	○										
	ブルーシート	枚	人数分	○										
	ベンチコート	枚	2		△									
	防寒靴（長靴）	個	人数分		△									
	石鹸	ヶ	人数分		△									
	水なしシャンプー	本	適量		△									
	タオル	枚	2		△									
	（濡れ）ティッシュ	箱	20		△									
	使い捨てカイロ	個	適量		△									
ポリタンク 18L	ヶ	4日分		△										
手袋	枚	程度		△										
スリッパ	足	2		△										
拡声器	ヶ	適量		△										
CB 無線（トランシーバー）	台	人数分		△										
傘	本	1		△										
雨具	着	人数分		△										
事務 用品	問診票	枚	人数分	○			事務用品は、左記に同じ				事務用品は、左記に同じ			
	カルテ 2号用紙	冊	人数分	○			※以下は、電気が使用可能な場合は考慮							
	処方箋	枚	100	○			プリンター	台	1					
	パソコン	台	2	○			コピー機	台	1					
	Wi-Fi	個	100	○			プリンターインク	セット	適量					
	USB メモリ	個	1	○			テプラ本体	台	1					
カメラ	台	1	○			テプラテープ	セット	1						

区分	災害発生から 3日～1週間以内の出勤					災害発生から 1週間～1ヶ月の出勤				災害発生から 1ヵ月以上の出勤				
	品名	単位	数量	重要度		チェック 済	品名	単位	数量	チェック 済	品名	単位	数量	チェック 済
				A	B									
事務用品	カメラ充電器	台	1	○			コピー用紙 A4	箱	1					
	用箋挟	枚	1	○										
	大学ノート	冊	1	○			※以下は書類整理のため							
	セロハンテープ	ヶ	5	△			穴開けパンチ	ヶ	1					
	ハサミ	ヶ	5	△			ホッチキス	ヶ	1					
	カッター	ヶ	1	△			ホッチキス針	箱	1					
	千枚通し	本	3	△										
	A4用紙	締	2	△										
	フォルダー(青)	ヶ	1	△										
	筆記用具	ヶ	2	△										
	模造紙	枚	100	△										
	カラーマジック	セット	適量	△										
炊事具類	割り箸	膳	5	○										
	使い捨てスプーン	個	1	○			炊事具類は、左記に同じ			炊事具類は、左記に同じ				
	紙皿	枚	30	△										
	紙どんぶり	枚	30	△			※水道の使用が可能であれば考慮			※水道の使用は可能と考え準備する				
	カセットコンロ	個	100	△										
	カセットボンベ	本	100	△										
	鍋	ヶ	1	△										
ヤカン	ヶ	適量	△											
食料品	アルファ米	個	1	○										
	缶詰	個	1	○										
	パンの缶詰	個	適量	○			食品は、左記に同じ			食品は、左記に同じ				
	カロリーメイト	個	適量	○										
	ペットボトル水	本	適量	○			※現地調達が可能であれば考慮			※現地調達も可能と考え準備する				
	// お茶	本	適量	△										
	野菜ジュース等	本	適量	△										
	日本茶ティーバック	パック	適量	△										
	インスタントコーヒー	瓶	量	△										
	スナック菓子	個	適量	△										
	カップ麺	個	適量	△										
チョコレート等	個	適量	△											
果物(バナナ等)	個	適量	△											
その他	テント	張	1	△			医療廃棄物容器	箱	適当			撤退用ダンボール箱	箱	適当
	発電機	機	1	△										

添付資料7：業務日程表例

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日改訂

医療救護チーム業務日程

医療派遣事務局

(ア) 出発前日

〇〇:〇〇 : オリエンテーション

(イ) 1日目

〇〇:〇〇 : 〇〇〇に集合

〇〇:〇〇 : 〇〇〇前より出発

〇〇:〇〇 : 〇〇県到着

必要に応じ、災害対策本部に登録

〇〇:〇〇 : 〇〇市到着

先遣隊との引継ぎを職種または担当業務毎に実施

(ウ) 2～4日目

〇〇:〇〇 : 宿泊施設出発

〇〇:〇〇 : ミーティング

〇〇:〇〇 : 巡回診療へ出発

〇〇:〇〇 : 昼食

〇〇:〇〇 : 午後の診療へ出発

〇〇:〇〇 : 保健師に活動報告

〇〇:〇〇 : 宿泊施設へ移動、担当毎の作業

(エ) 5日目

〇〇:〇〇-〇〇:〇〇 : 前日と同様

〇〇:〇〇 : 後継隊への引継ぎ (到着日と同様のスケジュール)

〇〇:〇〇 : 出発

〇〇:〇〇 : 到着

添付資料8：災害医療支援関連サイト

* 災害医療全般・災害時に多い疾患

広域災害救急医療情報センター：広域災害救急医療情報システム

<http://www.wds.emis.go.jp/>

日本老年医学会：災害時高齢者医療の初期対応と救急搬送基準に関するガイドライン

http://www.jpn-geriat-soc.or.jp/member/kaikai/koku_saigai-guideline.html

日本栓子検出と治療学会：静脈血栓塞栓症予防資料

<http://www.embolus.jp/information/vteposter.pdf>

日本心臓病学会：震災関連医療関係者用

<http://www.jcc.gr.jp/banner/311/notice-fordoctors.html>

日本感染症学会：地震・津波後に問題となる感染症

http://www.kansensho.or.jp/disaster/110322_disaster.pdf

日本呼吸器学会：東日本大震災被災地域の皆様へ呼吸器に関する Q&A

http://www.jrs.or.jp/home/modules/citizen/index.php?content_id=134

* メンタルヘルス

災害時こころの情報支援センター

<http://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/>

* 慢性疾患への対応

日本高血圧学会：被災地の高血圧患者への Q&A

http://www.jpnh.org/files/cms/137_1.pdf

日本糖尿病学会：震災関連情報

http://www.jds.or.jp/modules/shinsai/index.php?content_id=1

* 妊産婦・小児

日本産科婦人科学会：東日本大震災に関わるお知らせ

http://www.jsog.or.jp/news/shinsai_index.html

日本小児科学会：東日本大震災について

<http://www.jpeds.or.jp/tohoku-j.html>

* 透析関連

日本透析医会：災害時情報ネットワーク

<http://www.saigai-touseki.net/>

* 在宅酸素関連

日本呼吸器病学会：在宅酸素療法や NPPV による治療の相談医療機関

<http://www.jrs.or.jp/home/uploads/photos/706.pdf>

日本呼吸器疾患患者団体連合会：計画停電対象地域の在宅酸素療法患者さんへ

http://www.jrs.or.jp/jrs_patient/info/zaitakusansoryoho_.html

* 放射線被曝関連

公益財団法人原子力安全研究協会：緊急被ばく医療研修のホームページ

<http://www.remnet.jp/introduction/01.html>

原子力規制委員会：緊急時情報ホームページ

<http://kinkyu.nsr.go.jp/>

添付資料9：医療救護チーム1チームあたりに必要な物品一覧例

- (1) 診察用具一式（聴診器・ライト・打鍵器など）
- (2) ディスポ手袋 M, S それぞれ 2 箱
- (3) 清潔手袋 6.5, 7, 7.5 それぞれ 10 セット
- (4) 携帯型 SaO₂ モニタ 1 個
- (5) 携帯型心電計 1 個
- (6) 血圧計（電池・手動） 1 セット
- (7) CPR セット 1 式
- (8) 電池式吸入器 1 個
- (9) 舌圧子 100 x n（日数）
- (10) 包交セット（綿球と鑷子が一緒になったもの） 20 x n
- (11) ガーゼ 4 つ折り 5 枚セット 20 x n
- (12) ガーゼ 4 つ折り 20 枚セット 5 x n
- (13) 消毒薬（イソジン、ヒビテンなど）
- (14) 酒精綿 3 箱 x n
- (15) 注射器（5ml） 20 本
- (16) 注射器（10ml） 50 本
- (17) 注射針 18G, 22G, 23G それぞれ 2 箱
- (18) 輸液セット 5 x n
- (19) 留置針 20G, 22G, 24G それぞれ 1 箱
- (20) テープ 2 箱
- (21) 包帯 2 箱、弾性包帯 10 巻
- (22) ディスポのメス 1 箱
- (23) 鑷子、鉗子など少数
- (24) トレックスガーゼ 10 枚 x n
- (25) 被覆材 大小 10 枚ずつ x n
- (26) うがい薬、コップ、手指消毒薬
- (27) 記録用紙、筆記具

添付資料10：災害時携行用医薬品リスト

新潟中越地震の欄：川口町での医療活動を参考に作成した、1週間程度の活動に携行する医薬品リスト

東日本大震災の欄：東松島市鳴瀬地区を拠点とした医療活動において使用された医薬品リスト

約3ヵ月半に及ぶ活動であったため、亜急性期、慢性期に使用される医薬品が混在する。

【 内 用 剤 】

	薬効分類	医薬品名	新潟中越地震 (急性期)		東日本大震災 (急性期+慢性期)	
			携行薬	携行数量	携行薬	使用数量
1	抗不安剤	アトラックス-P カプセル 25mg			○	100
2	抗不安剤	2mg セルシン錠	○	200	○	300
3	抗不安剤	デパス錠 0.5mg			○	1,000
4	抗不安剤	デパス錠 1mg			○	50
5	抗てんかん剤	デパケン R 錠 200			○	200
6	抗精神病薬	リスパダール錠 1mg			○	200
7	抗精神病薬	リスパダール内用液 1mg/mL			○	50
8	催眠・鎮静剤	サイレース錠 1mg			○	250
9	催眠・鎮静剤	プロチゾラム錠 0.25mg	○	200	○	650
10	催眠・鎮静剤	マイスリー錠 5mg	○	100	○	800
11	解熱鎮痛消炎剤	ロキソプロフェン錠 60mg	○	500	○	1,600
12	解熱鎮痛消炎剤	カロナール錠 200mg	○	200	○	900
13	総合感冒剤	PL 配合顆粒 (1g/P)	○	1,000	○	3,000
14	鎮痙剤	ブスコパン錠 10mg	○	50	○	50
15	鎮痙剤	アキネトン錠 1mg			○	100
16	抗めまい剤	メリスロン錠 6mg	○	50	○	250
17	利尿剤	ラシックス錠 20mg			○	130
18	不整脈用剤	ワソラン錠 40mg			○	350
19	血圧降下剤	アムロジピン OD 錠 2.5mg	○	200	○	500
20	血圧降下剤	アムロジピン OD 錠 5mg	○		○	1,200
21	血圧降下剤	アダラート L 錠 10mg			○	300
22	血圧降下剤	アダラート CR 錠 20mg			○	300
23	血圧降下剤	ディオバン錠 40mg			○	500
24	血圧降下剤	プロプレス錠 4			○	550
25	血圧降下剤	ミカルディス錠 20mg			○	350
26	血圧降下剤	レニベース錠 2.5mg	○	100		
27	血圧降下剤	レニベース錠 5mg			○	300
28	抗狭心症剤	ニトロペン舌下錠 0.3mg	○	20	○	30
29	高脂血症用剤	プラバスタチン Na 錠 10			○	250
30	高脂血症用剤	リピトール錠 5mg			○	300
31	去痰剤	ムコダイン錠 250mg	○	500	○	2,500
32	鎮咳剤	メジコン錠 15mg	○	500	○	3,500

33	鎮咳去痰剤	メジコン散+ムコダインDS+ムコソルバンDS ※			○	400
34	気管支拡張剤	テオドール錠 100mg	○	200	○	300
35	気管支拡張剤	テオドールドライシロップ 20% (50mg/P)	○	100	○	100
36	止瀉剤	ロペミンカプセル 1mg	○	50		
37	整腸剤	ビオフェルミン配合散 (0.5g/P)	○	100	○	200
38	整腸剤	ビオフェルミン配合散 (1g/P)	○	200	○	800
39	整腸剤	ビオフェルミンR錠			○	350
40	消化性潰瘍用剤	セルベックスカプセル 50mg	○	400	○	1,400
41	消化性潰瘍用剤	オメプラゾール錠 10mg			○	400
42	消化性潰瘍用剤	ガスター錠 20mg	○	100	○	400
43	下剤	プルゼニド錠 12mg	○	100	○	800
44	下剤	酸化マグネシウム (0.5g/P)	○	100	○	350
45	下剤	マグラックス錠 330mg			○	1,300
46	制吐剤	プリンペラン錠 5mg	○	100	○	150
47	止血剤	トランサミンカプセル 250mg			○	750
48	副腎皮質ホルモン剤	プレドニン錠 5mg	○	100	○	200
49	抗血小板剤	バイアスピリン錠 100mg	○	100	○	300
50	抗血小板剤	ワーファリン錠 1mg			○	150
51	血糖降下剤	アマリール 0.5mg 錠			○	200
52	血糖降下剤	ダオニール錠 1.25mg	○	100	○	20
53	血糖降下剤	ベイスン OD 錠 0.3			○	200
54	血糖降下剤	メデット錠 250mg			○	250
55	抗ヒスタミン剤	ポララミン錠 2mg	○	200		
56	抗アレルギー剤	アレグラ錠 60mg			○	1,200
57	抗アレルギー剤	アレジオン錠 10			○	700
58	抗アレルギー剤	アレロック錠 5			○	500
59	抗アレルギー剤	ザジテンドライシロップ 0.1% (0.3mg/P)	○	100	○	100
60	抗アレルギー剤	ジルテック錠 10			○	200
61	抗生物質	クラリス錠 200mg	○	200	○	400
62	抗生物質	クラリシッド・ドライシロップ 10% 小児用 (50mg/P)	○	100	○	100
63	抗生物質	ケフラールカプセル 250mg	○	400	○	300
64	抗生物質	ケフラール細粒小児用 (100mg/P)	○	200	○	150
65	抗生物質	サワシリンカプセル 250mg	○	200	○	300
66	抗生物質	サワシリン細粒 10% (100mg/P)	○	100	○	150
67	抗生物質	ジスロマック錠 250mg			○	120
68	抗生物質	フロモックス錠 100mg			○	100
69	抗菌剤	クラビット錠 100mg	○	200		
70	抗菌剤	クラビット錠 500mg			○	200
71	抗ウイルス剤	ビクロックス錠 200	○	200	○	40
72	抗ウイルス剤	バルトレックス錠 500			○	70

※ メジコン散 (10mg)、ムコダイン DS (300mg)、ムコソルバン DS (10mg) / 1包あたり

【 外 用 剤 】

1	解熱鎮痛消炎剤	ボルタレンサポ 25mg	○	50	○	50
2	解熱鎮痛消炎剤	アンヒバ坐剤小児用 100mg	○	30	○	30
3	抗菌剤	クラビット点眼液 0.5%5mL	○	10	○	10
4	抗アレルギー剤	ザジテン点眼液 0.05%5mL	○	10		
5	抗アレルギー剤	フルナーゼ点鼻液 50 μg28 噴霧用			○	50
6	抗アレルギー剤	リボスチン点眼液 0.025%5mL			○	80
7	抗狭心症剤	フランドルテープ 40mg/ 枚	○	10	○	100
8	気管支拡張剤	サルタノールインヘラー 100 μg13.5mL	○	5		
9	気管支拡張剤	ベネトリン吸入液 0.5%30mL	○	2		
10	気管支拡張剤	メプチン 10 μg エアー 100 吸入			○	10
11	気管支拡張剤	ホクナリンテープ 0.5mg	○	50	○	40
12	気管支拡張剤	ホクナリンテープ 1mg	○	50	○	300
13	去痰剤	ビソルボン吸入液 0.2%500mL	○	1		
14	制吐剤	ナウゼリン坐剤 10mg	○	20	○	20
15	制吐剤	ナウゼリン坐剤 30mg	○	20	○	10
16	口内炎治療剤	ケナログ口腔用軟膏 0.1%2g	○	10	○	40
17	副腎皮質ホルモン剤	リンデロン-VG 軟膏 0.12%5g	○	10	○	40
18	消炎剤	アズノール軟膏 0.033%20g	○	20	○	10
19	抗ヒスタミン剤	レスタミンコーワクリーム 1%10g (小分け)	○	20	○	50
20	抗菌剤	ゲーベンクリーム 1%50g	○	20	○	6
21	抗生物質	ゲンタシン軟膏 0.1%10g	○	20	○	30
22	抗生物質	ソフラチュール貼付剤 10cm × 10cm/ 枚	○	10		
23	抗ウイルス剤	ゾビラックス軟膏 5%5g	○	10	○	10
24	抗真菌剤	ラミシールクリーム 1%			○	10
25	殺菌消毒剤	オラドールトローチ 0.5mg	○	400	○	300
26	含嗽剤	イソジンガーグル液 7%30mL	○	100	○	70
27	浣腸剤	ケンエー G 浣腸液 50%30mL	○	5		
28	鎮痛剤	インテバン軟膏 1%25g			○	20
29	鎮痛剤	ボルタレンゲル 1%25g	○	10		
30	消炎鎮痛パップ剤	MS 冷シップ 20g × 5 枚			○	130
31	消炎鎮痛パップ剤	MS 温シップ 20g × 5 枚			○	20
32	消炎鎮痛パップ剤	ミルタックス 6 枚入	○	100		
33	消炎鎮痛パップ剤	モーラステープ 20mg (7cm × 10cm) × 7 枚			○	400
34	軟膏基剤	白色ワセリン 10g (小分け)			○	30
35	消毒薬	ウエルパス 1000mL	○	10		
36	消毒薬	ポピヨドン液 10%250mL	○	3	○	1
37	消毒薬	消毒用エタノール B 液 IP500mL	○	3		
38	消毒薬	マスキ水 0.05%500mL	○	5	○	5
39	その他	生理食塩液 (開栓型) 1000mL	○	10		
40	その他	滅菌精製水 (開栓型) 1000mL	○	20		

【 注 射 剤 】

1	鎮痛剤	ペンタジン注射液 15mg1mL	○	5		
2	抗不安剤	ホリゾン注射液 10mg2mL	○	5		
3	抗不安剤	アタラックス-P注射液 25mg1mL	○	5		
4	副交感神経抑制剤	アトロピン硫酸塩注 0.5mg1mL	○	5		
5	局所麻酔剤	キシロカイン注ポリアンプ 1%10mL	○	10		
6	強心・昇圧剤	イノバン注 100mg5mL	○	5		
7	強心・昇圧剤	ドブトレックス注射液 100mg5mL	○	5		
8	強心・昇圧剤	ノルアドリナリン注 1mg1mL	○	5		
9	強心・昇圧剤	アドレナリン注 0.1% シリンジ	○	5		
10	気管支拡張剤	ネオフィリン注 250mg10mL	○	5		
11	抗生物質	パセトクール静注用 1g バッグ S	○	10		
12	抗生物質	ペントシリン注射用 1g	○	10		
13	電解質輸液	ラクテック注 500mL	○	5	○	3
14	電解質輸液	ソリタ T1 号輸液 500mL	○	5		
15	生理食塩液	生理食塩液 PL20mL	○	30	○	40
16	生理食塩液	生理食塩液 100mL	○	10		
17	トキシイド	沈降破傷風トキシイド 0.5mL	○	20	○	15
18	インスリン製剤	ヒューマリンR注 100単位/mL 1000単位 10mL	○	1	○	5
19	インスリン製剤	ランタス注ソロスター 300単位 3mL シリンジ			○	5
20	インスリン製剤	ノボリンN注フレックスペン 300単位 3mL シリンジ			○	5

※ 医薬品名は平成24年9月現在の名称に統一した。

添付資料11：災害時携行用薬剤関連資材リスト（亜急性期・1週間分）

区分	物品名	数量
調剤用物品	処方せん	300枚
	内用剤薬袋	500枚
	外用剤薬袋	200枚
	外用剤プラスチックボトル 100mL	20個
	軟膏つぼ 30g	10個
	ビニール袋	500枚
	軟膏べら	1本
	調剤印	1個
	お薬手帳	100冊
調剤用物品	ノートパソコン	1台
	マジック（黒・赤）	各1本
	ボールペン	2本
	輪ゴム	1箱
	ホッチキス	1台
	セロハンテープ	1個
	電卓	1台
	ハサミ	1本
調剤用物品	医薬品集（医療用・一般用）	各1冊
	医薬品鑑別辞典	1冊
	治療指針	1冊
調剤用物品	保冷容器	1台
	冷却剤	20個
	リュックサック（巡回診療用）	1個
	調剤用ケース（薬保管用）	20個

添付資料12：処方せん（災害用）

処方せん(災害用)

患者	ID				所属医療機関の名称及び所在地	東京都新宿区戸山 1-21-1 国立国際医療研究センター病院	
	氏名				電話番号	03-3202-7181(代表)	
	生年月日	明・大・昭・平	年	月	日	男・女	医師氏名
交付年月日		平成	年	月	日	医療救護所等の名称	
処方	RP)						
備考							
	調剤済年月日	平成	年	月	日	薬剤師氏名	

3枚綴り 1枚目：調剤用 2枚目：患者控用 3枚目：診療録貼付用

添付資料13：災害医療援助者自身の「こころのケア」

被災者の救護にあたる医療援助者は、災害現場の悲惨な状況を目撃することや、被災者に接することで、直接的・間接的にストレスを受ける。想像を絶するような被災状況を目の当たりにし、被災者からの外傷的体験の話を聞くと聞き手も精神的打撃を受けて、心と身体に様々な変化が起こりえる（二次被災）。したがって災害時の困難な状況下でも、援助者が心の健康を保ちながら支援活動が行えるように、自身が体験するストレス反応とストレスマネジメントについて理解した上で被災地へ赴く必要がある。

1. 援助者に生じる心理的な反応

極めてストレスの高い状況が深刻であったり、長期に及んだりすると、燃え尽き症候群や ストレス関連障害、うつ状態などが見られる場合がある。

2. ストレス症状の自己診断

以下の症状の4～5項目なら問題ないが、6～7項目以上あてはまる場合には注意が必要

- 周囲から冷遇されていると感じる
- 向こう見ずな態度をとる
- 自分が偉大のように思えてしまう
- 休息や睡眠をとれない
- 同僚や上司を信頼できない
- ケガや病気になりやすい
- ものごとに集中できない
- 何をしても面白くない
- すぐ腹が立ち、人を責めたくなる
- 不安がある
- 状況判断や意思決定をよく誤る
- 頭痛がする
- よく眠れない
- 酒やタバコが増える
- じっとしてられない
- 気分が落ち込む
- 人と付き合いたくない
- 問題があると分かりながら考えない
- いらいらする
- もの忘れがひどい
- 発疹が出る

3. ストレスマネジメント

- 1) ストレスの兆候が現れたら、自分の気持ちやストレスに感じていることを素直に認める
- 2) 「自分はよくやっている」「これでいいんだ」と頑張っている自分の行動を認める
- 3) 自分だけで何とかしようと思わず、自分の限界を知り、チーム内で協力し合い、お互いに声をかけながら活動することが大切
- 4) 活動の場から離れた際には、ストレッチ体操や、深呼吸を試みる。自分の好きな音楽を聴いてみるなどして、自分自身がリラックスできるような工夫をする
- 5) ちょっとでも嬉しいことや楽しいことがあったら他者と笑いあえるような工夫をする
- 6) 家族や友人と電話やメールなどで連絡をとりホッとできる時間を作る
- 7) 休めるときは十分に休息をとり、食事や水分もしっかりととる
- 8) ストレス症状の自己診断で6～7項目以上あるいは、不眠や不安、気持ちの辛さがある場合は、チームリーダーや心の専門家に早めに相談する

4. 支援活動後の日常生活への復帰方法

- 1) 任務が終了したと自分に言い聞かせる
- 2) 休養・休息を心がけリフレッシュする時間を作る
- 3) 家族や友人と過ごせる時間を大切にする
- 4) 燃え尽き症候群やストレス関連障害、うつ状態などの兆候がみられる場合は心の専門家に相談する

添付資料14：急性期の災害看護

(1) 状況評価、安全確保：災害という特殊な場所で安全で迅速な救護活動を行なう為に、バリアーの装着、周囲の安全性の確保を行う。

- ア 感染防御：ガラスや金属片などが散乱している場合が想定される。そのような場所での救護活動では血液、体液等による汚染が予測される。手袋、ゴーグル、マスク、ガウンなどバリアーを装着して行うことが望ましい。
- イ 現場周囲の安全性：救護活動を始める前に、状況評価・安全確保を行う。二次災害の危険の有無を判断し、場合によっては傷病者を避難させた後、または二次災害の原因となるものを取り除いた後で救護活動を行う。
- ウ 傷病者、状況の確認：傷病者の数と傷病状況の確認。

(2) 外傷看護：初期評価：傷病者の生理学的状態から蘇生処置の必要性を判断する。

- ア 意識・気道：用手頸椎固定を行いながら声かけを行う。声がだせれば気道は開通していると判断。気道に問題があれば下顎挙上を行い気道の確保を行う。
- イ 呼吸：傷病者の口元に耳をあて口鼻からの空気の入りを耳で聴き、ほほで感じるとともに、胸郭の動きを目で確認する。(見て、聴いて、感じて)呼吸が不十分であれば人工呼吸を開始する。
- ウ 循環：橈骨動脈を触知し、触れれば血圧は 80mmHg 以上であると判断。触れなければ頸動脈を触知し、触れれば 60mmHg 以上はであると判断。頸動脈がふれなければ CPR 適応となる。明らかな出血はガーゼなどにより直接圧迫止血を行う。
* 初期評価の段階で呼吸、循環に異常があると判断した場合は人工呼吸、心臓マッサージを施行する。
- エ 全身観察：傷病者の解剖学的状態から重大な臓器損傷の有無を判断する。

(3) 熱傷看護 (添付参照)

(4) 慢性疾患看護 (高血圧、糖尿病、心疾患、呼吸器疾患など)

患者の状態を把握し、災害が起こる前までの治療コントロールに近づけるよう調整を行う。
(例：内服薬の有無、食事・運動・生活状況等)
以下の症状の 4～5 項目なら問題ないが、6～7 項目以上あてはまる場合には注意が必要。

添付資料15：外傷看護の実際

状況評価を行う。

状況評価では感染防御を行い、救急現場の安全確認、二次災害の防止対策を講じる。受傷機転を把握

初期評価：頸椎保護、気道の評価、呼吸、循環の評価を 15 秒以内に行う。この際、必要に応じた処置を行う。

全身観察：部位別に頭部から下肢まで解剖学的な観察を行う中で生命の危機兆候を迅速に発見する。

頭部・顔面：明らかな変形や出血の有無。変形がなければ直接圧迫止血施行。変形がある場合には出血部周囲の皮膚を圧迫し止血を施行する。意識レベルの確認を行い、レベルが 2 桁（JCS）であれば搬送（必要ならば災害拠点病院への広域医療搬送）を考慮する。搬送の際は医療機関につくまで 5 分毎に継続的な観察を行う。

頸部：頸静脈の怒張（循環血流量が減少している際は出現しない場合もある）気管の偏位、皮下気腫の有無を確認する。確認後、頸部は動かさないように頸椎カラーで固定することが望ましい。

胸部：視診として胸郭運動の左右差、外表面の損傷の有無。聴診は呼吸音の左右差、触診では頸部気管偏位、皮下気腫の有無。打診では鼓音、濁音の有無。圧痛や疼痛の有無。また、Spo₂の確認を行う。

主な胸部症状と処置

- ・開放性胸壁損傷（開放性気胸）…三辺テーピング
- ・緊張性気胸…胸腔内の減圧
- ・大量血胸…ドレナージ
- ・シンタンポナーデ…心嚢穿刺
- ・フレイルチェスト…厚く重ねたガーゼやタオルをあててテープで固定
- ・穿通性の異物がみられた場合にはそのままの状態固定する。

腹部：明らかな損傷、膨隆の有無、圧痕の有無。腸管脱出している場合にはビニールなどで被覆する。また胸部同様穿通性の異物がみられた場合にはそのままの状態固定する。

骨盤と大腿：腸骨を両側面から圧迫して動揺、痛みの有無を確認し、いずれかの症状がみられた場合には骨盤骨折の可能性があり、出血を助長させる可能性があるためそれ以上の触診は行わない。もしいずれかの症状がみられなかった場合には恥骨を上方から圧迫し動揺、痛みを確認する。

骨折：開放性骨折の場合には感染予防・止血目的にて開放部を清潔なガーゼで覆う。また疼痛緩和・変形予防目的でシーネ（場合によっては傘や板等）で固定する。

クラッシュシンドローム：長時間局所が圧迫されることにより筋組織損傷がおこり、救出されると同時に急性腎不全、凝固機能障害、代謝性アシドーシスなどを合併し、全身状態が急速に悪化。瓦礫から救出する際はまず、カリウムが入っていない輸液を投与したのち救出するとよい。近隣の医療機関まで時間がかかる際は減張切開などを視野に入れる。高カリウムによる致死的不整脈、低ナトリウムによる除脈などが起こりうるためモニター管理やブラッドアクセスを用いて透析が行える病院への搬送が望ましい。

処置は救護所で行い、緊急の状態を安定させ医療機関への搬送に耐えられる状態にすることを目標にする。

*災害時は特に限られた医療資源、物資の中で援助活動が行われるため、フィジカルアセスメントを用いて観察することが求められている。また、問診は AMPLE を用いると抜けがなくてよい。

【外傷看護：全身で鑑別するべき臓器損傷】

タンポナーデ：頸静脈の怒張、血圧低下、脈圧低下、奇脈、心音低下

気道外傷：顔面外傷、頸部皮下気腫、喉頭損傷、気道狭窄音

フレイルチェスト：胸郭の奇異運動や動揺

開放性胸壁損傷（気胸）：吸い込み創、創からの泡の混じった出血

緊張性気胸：傷病者の呼吸音低下、鼓音、皮下気腫、気管の健側への偏移、頸静脈怒張

大量血胸：呼吸音の左右差、患側胸部の濁音

腹部外傷：腹部膨隆、腹壁の緊張、腹部圧痛、下腹部の圧痕

骨盤骨折：骨盤の動揺・痛みの有無、下肢の伸長差

大腿骨骨折：大腿の変形・腫脹、動揺・痛み、下肢の伸長差

【熱傷看護】

熱傷分類	障害組織	生体変化	外見	症状	消毒	処置
I 度熱傷	表皮	軽度の浮腫	発赤・紅斑	疼痛・熱感	ヒビテン液 (0.05% ヒビテン水) ポピドンヨード (イソジン)	局所の冷却 消炎剤内服 ステロイド剤軟膏塗布
II 度熱傷 (浅達性)	表皮	浮腫・水疱	水泡底が赤色	強い疼痛、 灼熱感		水泡は温存 消毒後被覆剤で覆い 感染がなければ数日放置
II 度熱傷 (深達性)	真皮		水泡底が蒼白	知覚鈍麻		小範囲の場合には上記 と同様の処置 広範囲の場合はIII度熱 傷処置と同様
III 度熱傷	真皮全層 皮化組織	血管、血管内 の血球破壊 血流の途絶	壊死・白色	無痛性		感染防止目的で抗菌剤 の軟膏を塗布する。感 染があれば1回/2日 ガーゼ交換

【津波】

地震災害による広域災害であり二次的災害である。津波は規模や被害は予測不能なものである。

建物倒壊、家具などの転落、落下物によるものや、溺死などが直接の原因。また、低体温や脱水（海水を飲んで起こる）、クラッシュシンドローム、感染症などが挙げられる。

【感染】

インフラの破壊や避難環境の悪化に伴って感染症の発生のリスクが高くなる。冬季ではインフルエンザを含めた呼吸器感染症、夏季では食中毒を含め胃腸炎などの消化器症状が起こりやすい。

免疫機能が低下している高齢者に多いが、小児でも免疫力が未発達のため容易に感染症を起こしてしまう。

感染を拡大しないように努めることが大切である。とくに、避難所で手指の消毒、換気を徹底させるよう注意喚起していく必要がある。

【救護チーム員用健康管理セット】

品名	数	品名	数	品名	数
総合ビタミン剤		消毒セット		血圧計	
総合感冒剤		イソジン		聴診器	
解熱鎮痛剤		ガーゼ		体温計	
健胃・消化剤		ソフトタイ		リップクリーム	
止痢剤		冷湿布		点眼薬	
整腸剤		カットバン(長方形)		マスク	
イソジンガーグル		ゲンタシン軟膏		手指消毒剤	

* チーム員の人数により、必要準備数を適宜設定する。

添付資料16：石巻圏合同救護チームの避難所アセスメントシート例

(避難所名：) 平成 年 月 日 : 現在

(地区名：)

重要度

凡例：◎全員、○50%以上、△50%未満、×皆無 (救護チーム名：)

◎	支援チーム責任者の氏名と職名		医師	看護師	薬剤師	事務		
	常駐 / 巡回チームの 構成人数	(職種)	人	人	人	人	人	
		救護支援チーム 現地スタッフ	人	人	人	人	人	
	人数全体	人	受診人数 () 人					
			発熱 (38℃以上) () 人、咳 () 人、嘔吐 () 人、下痢 () 人					
			インフルエンザ () 人【※ A () 人 B () 人】呼吸器疾患 () 人、呼吸困難 () 人 ※インフルエンザにつきまして迅速診断された場合はその結果をお知らせください。					
◎	水	◎・○・△・×						
◎	食事	◎・○・△・×						
◎	電気	◎・○・△・×						
◎	毛布	◎・○・△・×						
◎	暖房	◎・○・△・×						
◎	衛生状態 / トイレ	◎・○・△・×	水道 有・無	汲み取り	◎ ○ △ ×			
	既医療		<input type="checkbox"/> 日赤 <input type="checkbox"/> 東北大 <input type="checkbox"/> 医師会 <input type="checkbox"/> その他 ()					
○	小児科ニーズ	◎・○・△・×	1歳未満 () 人 ニーズあり () 人 氏名：					
○	精神科ニーズ	◎・○・△・×	不眠・不安 () 人、精神科疾患 () 人 ニーズあり () 人 氏名：					
○	産婦人科ニーズ	◎・○・△・×						
	妊婦情報	()ヶ月 ()人 ()ヶ月 ()人						
	歯科ニーズ	◎・○・△・×	ニーズあり () 人 氏名： 痛み有 無 (入れ歯失くした等)					
	DM 専門医ニーズ	◎・○・△・×	ニーズあり () 人 氏名：					
	皮膚科ニーズ	◎・○・△・×	ニーズあり () 人 氏名：					
	眼科ニーズ	◎・○・△・×	ニーズあり () 人 氏名：					
	感染症保健指導ニーズ	◎・○・△・×	ニーズあり () 人 氏名：					
	リーダー連絡先							
	その他							

添付資料17：石巻圏合同救護チームの避難所生活における 感染管理上のリスクアセスメントシート例

平成 年 月 日

市町村名

避難所名

大体の人数

人

記載者

(所属)

(職種)

氏名

利用可能な医療機関（あれば）

避難所の形態		
1	ホールなどに大人数が収容されている	ある・ない
2	教室や部屋など、個別に収容する場所がある	ある・ない
3	各家族同士の距離は、1 m 以上離れている (成人男性の腕の長さは約 70cm、足の長さは約 25cm)	している・不十分・できない
避難者の年齢構成		
4	小児（5才以上）	%
5	高齢者（65才以上）	%
6	妊婦	人
手指衛生		
7	水道水が復旧している	している・していない
汚物処理		
8	トイレは水洗で自動に流すことができる	できる・不十分・ない
9	トイレの清掃	できる・不十分・ない
10	おむつなどの廃棄場所が決められている	できる・不十分・ない
食品管理について		
11	調理者の手指衛生が可能	できる・不十分・ない
12	調理器具を洗うことができる	できる・不十分・ない
13	人数分の箸、コップ、皿などの食器類	ある・不十分・ない
14	食器類を洗うことができる	できる・不十分・ない
換気について		
15	換気扇や空調設備による換気が可能	できる・不十分・ない
16	構造上、避難場所の窓を開けることができる	できる・不十分・ない
体調管理について		
17	避難者の健康状態を把握している人がいる	している・していない
18	外部との連絡手段（電話・携帯）がある	ある・ない
物品の確保状況		
19	石鹸	ある・不十分・ない
20	速乾性アルコール手指消毒	ある・不十分・ない
21	マスク	ある・不十分・ない
22	消毒薬（次亜塩素酸：ハイターなど）	ある・不十分・ない
23	体温計	ある・不十分・ない
罹患状況 (可能であれば人数)		
24	発熱者（37.5℃以上を目安とする）	いる（現在 人、累計 人）・いない
25	呼吸器症状（咽頭痛、咳、痰など）を有する方	いる（現在 人、累計 人）・いない
26	消化器症状（嘔吐、下痢など）を有する方	いる（現在 人、累計 人）・いない
27	発疹を有する方	いる（現在 人、累計 人）・いない
要介護援助者の状況		
28	身体介護を要する方	いる（現在 人）・いない
29	認知症状のある方	いる（現在 人）・いない
30	身体障害者で援護を要する人	いる（現在 人）・いない
31	知的障害者で援護を要する人	いる（現在 人）・いない
32	精神疾患を抱え、服薬中の人	いる（現在 人）・いない
その他特記事項		

参考文献

1. スフィア・プロジェクト：人道憲章 人道対応に関する最低基準，2011
2. 石井正：東日本大震災 石巻災害医療の全記録，講談社，2012
3. 上原鳴夫 編著：東日本大震災における保健医療救護活動の記録と教訓，じほう，2012
4. 高村政志：災害時の医療職に求められる医療支援、Modern Physician Vol.32 No.5 p538-542, 2012
5. 災害時地域精神保健医療活動ガイドライン，平成 13 年度厚生科学研究費補助金（厚生科学特別研究事業）
6. 兵庫県立大学 21 世紀 COE プログラム看護ケア方略研究部門看護ケア方法の開発プロジェクト（精神チーム）：看護者のための災害時心のケアハンドブックⅢ被災地でがんばるあなたへ，2005
7. 東京都福祉保健局：災害時の「こころのケア」の手引き，2008
8. 災害時のこころのケア，日本赤十字社 p30：<https://www.nisseki-service.com/e-commex/cgi-bin/.../Q-27/>
9. 高橋葉子：災害に遭った方へのかかわり，リエゾンナースと考える「困りごと」にどうかかわるか，p91-102, NURSE TOOLS, 2011
10. 集団災害，救急医学 Vol 15, No.13, December 1991
11. 21 世紀の災害医療体制 災害に備える医療のあり方
12. 災害の書動機における活動マニュアルとその運用に関する研究チーム 研究報告書
13. 国際災害看護マニュアル
14. PAHO：Natural Disaster Protecting the Public's Health
15. JICA：防災と開発，2003
16. 太田宗夫ら監修：JMTDR マニュアル，国際協力事業団 国際緊急援助隊事務局，1998
17. 山本保博ら監修：国際災害看護マニュアル，真興交易医書出版部，2002
18. 黒田裕子ら監修：災害看護，メディカ出版，2004
19. インターナショナルナーシングレビュー 臨時増刊号；総特集 自然災害・事故・テロ時の看護，第 28 巻，第 3 号，2005
20. 特集：新潟中越地震・台風 23 号災害への援助活動，看護管理；84-106, Vol.15, No.2, 2005
21. 特集：新潟中越地震への救援活動と病院の対応，看護管理；196-202, Vol.15, No.3, 2005
22. 全国保健師長会：大規模災害における保健師の活動マニュアル ～阪神淡路・新潟中越震災に学ぶ 平常時からの対策～，2006
23. 東松島市保健福祉部：東日本大震災をともにのりこえて 東松島市 保健師・栄養士活動報告書，2013

謝 辞

このマニュアルの対象は、自然災害発生時に被災地に駆けつける医療機関の方々ですが、それらの支援を受ける側の視点がより重要となります。今回のマニュアル改訂にあたっては、東日本大震災において最大の被災地となった石巻医療圏の災害医療コーディネーターとして、延べ 3500 を超える医療救護チームを受け入れ、見事なリーダーシップと統率力を発揮された石井正氏と、津波が市街地の 65% に達し浸水率が被災市町村の中で最大となった東松島市において、発災直後より市民の健康を守るためにひたすら献身的に働き続けた同市保健福祉部の保健師と栄養士の方々から貴重なアドバイスを頂きました。この場を借りて、感謝申し上げます。

平成 25 年 3 月

「自然災害時における医療支援活動マニュアル」改訂タスクフォース

野田信一郎

自然災害時における亜急性期保健医療支援活動マニュアル

発行

平成 25 年 3 月 11 日

独立行政法人 国立国際医療研究センター

制作・編集

独立行政法人 国立国際医療研究センター

「自然災害時における医療支援活動マニュアル」改訂タスクフォース

制作協力

株式会社 梁プランニング

〒 162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1

TEL 03-3202-7181 (代表)

FAX 03-3205-7860 (国際医療協力局派遣協力課)

<http://www.ncgm.go.jp>



NCGM
National Center for Global Health and Medicine

独立行政法人

国立国際医療研究センター